

常磐共同火力株式会社 勿来発電所における  
福島県産木質バイオマス燃料の導入について

2015年5月29日  
東京電力株式会社 福島復興本社  
常磐共同火力株式会社

常磐共同火力株式会社（以下、常磐共同火力という）勿来発電所では、低炭素社会の実現に向けた主たる方策として、2011年1月より海外産の木材を原料とした木質バイオマス燃料（木質ペレット）を混焼した発電を実施しており、発生した電力は東京電力株式会社（以下、東京電力という）と東北電力株式会社（以下、東北電力という）が受電しております。

このたび、福島復興に貢献することを目的として、福島県産の木質バイオマス燃料の導入について、東北電力と協議のうえ具体的な検討を進めてまいりましたが、勿来発電所7号機（25万kW）での導入準備が整ったことから、2015年6月3日頃より試運用を開始する予定としております。

福島県産の木質バイオマス燃料の導入にあたっては、福島県内の未利用材（建築用材などとして利用されていない部分）を原料とした木質バイオマス燃料を、東京電力が安定的に調達し、常磐共同火力が混焼することで、福島県内の森林資源の有効活用や地域林業の活性化などにより、福島復興へと貢献してまいります。

常磐共同火力は、試運用にあたり安定運転に万全を期すとともに、試運用時の結果を見極めながら本運用に移行することを計画してまいります。

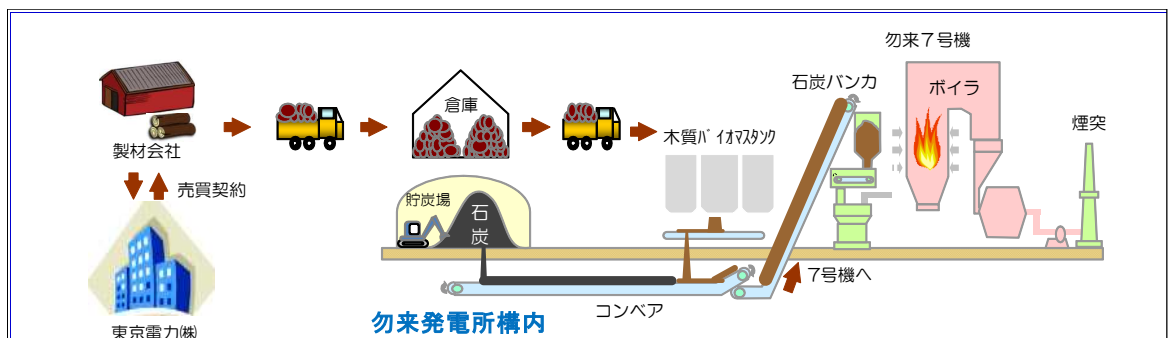
以 上

常磐共同火力株式会社勿来発電所への  
福島県産木質バイオマス燃料導入に関する概要

- ・ 実施発電所 : 勿来発電所 7号機 (25万kW)  
(所在地 福島県いわき市佐糠町大島<sup>さぬかまち</sup>20)
- ・ 福島県産木質バイオマス使用量 : 本運用開始時は1,000トン/年程度
- ・ 木質バイオマス燃料<sup>※1</sup>混焼率 : 約1%(熱量比、7号機の設備上の上限)
- ・ スケジュール(予定) : 試運用開始・・・2015年6月3日頃  
本運用開始・・・2016年3月以降

※1 木質バイオマス燃料・・・主に林地残材や製材所などから発生する未利用の木質原料を乾燥・粉碎し、圧力を加え、直径6～9mm、長さは10～25mmの円筒状に成形加工した固形燃料。

(参考) 福島県産木質バイオマス燃料の燃焼までの流れ



勿来発電所



木質バイオマス燃料(木質ペレット)

